

東海テレビ

SDGs アクション レポート 2024

mirai ミライ サク saku



vol.

02

TOKAI-TV
SDGs ACTION
REPORT 2024

ミ
ラ
イ
、
咲
か
そ
。



東海テレビ



Message

「わたしたちにできること」。

この合言葉のもとで、
東海テレビは様々な社会課題に
取り組んでいます。

1958年の開局以来、番組制作やニュース報道、イベント開催などを通じてはもちろんのこと、社会で暮らす人々が、心豊かに暮らせるために何が出来るかを考え、実践することこそが存在する意義だと考えています。66年に渡る歴史のなかでは「東海テレビ福祉文化事業団」や「東海テレビ国際基金」を設立し、時代に合わせた社会貢献活動と社会課題の解決にも積極的に取り組んできました。

サステナビリティの取り組みを強めたきっかけは、他ならぬ従業員の声でした。すべての局に配置したCSR推進担当者の数は年々増え、多種多様な発想から、バラエティ豊かなCSR・SDGs活動となって、東海テレビのアイデンティティーになりつつあります。これからも従業員の想いと声を大事にしながら、私たちが関わる人たちを、少しでも笑顔にできるアクションを起こしていけたらと思っています。若い世代ほど、社会課題の解決に関わりたい気持ちが強いと聞きます。これからも、東海テレビの優しさや思いやりを、アイデアと工夫でカタチにしていきたいと思っています。

一方で、地域のみなさまとの関係は、長きに渡り築いてきた「信用」と「信頼」の上に成り立っています。「信頼」なくして、私たちの仕事は成り立たないことを胸に刻みながら、これからも私たちの強みを活かし、社会課題の解決と地域の発展に貢献できる企業であり続けます。

東海テレビ放送株式会社
代表取締役社長

小島 浩資

東海テレビは、放送事業の高い公共性や社会的使命を常に自覚しながら、
企業倫理を守り地域社会に貢献することを目指しています。



ミライ、咲かそ。宣言



地域とともに

地域のみなさまに、信頼され、愛される
放送局でありつづけられるよう、
暮らしに寄り添う企業でありつづけます。



ミライの子どもたちへ

ミライを担う子どもたちに、
よりよい社会や環境を残していけるよう
CSR・SDGs活動に力を入れていきます。



文化を通して

暮らしの中に文化的な価値や楽しさを
感じてもらえる活動を心がけ、笑顔の花咲く
お手伝いをしていきたいと思っています。



Photo: 2024.7.5 CSR推進チーム キックオフミーティングにて

CSR推進チーム

CSR活動の軸となっているのは各部局から集められた25名の部署横断チーム。多様な人材が集まることで、より豊かなアイデアを創出。それぞれの経験、知識を生かし様々な企画を形にしています。

1年間の主な取り組み一覧

通年

- イッチーみらいシート
 - イッチー読み聞かせコンサート
 - 社内見学会
 - ペットボトルキャップチャレンジ
- など番組・配信・イベント等を通し、様々な活動を実施。



2024年

- 4月 13日(土) ● 「くらしの作文」音読配信(庄野俊哉アナウンサー) 3000回突破
- 5月 31日(金) ● 初夏のごみゼロアクション
- 6月 16日(日) ● イッチーSDGs国際交流イベント(東海テレビ国際基金)
- 8月 7日(水) ● 花の日『ミライ、咲かそ。』イッチーのフラワー教室(FNSチャリティキャンペーン)
- 22日(木) ● 夏休み特別企画「東海テレビ キッズデー」
- 9月 19日(木) ● フジテレビ食育出張授業「ハロー!どっこくん」in愛知
- 20日(金)
- 10月 26日(土) ● 東海テレビふるさとイッチー祭2024
- 27日(日)
- 31日(木) ● 第43回 東海テレビ愛の鈴号贈呈式
- 11月 29日(金) ● 第56回 東海テレビ文化賞顕彰式
- 30日(土) ● 東海市制55周年記念事業
親子で楽しむフェスティバル(読み聞かせ活動)
- 12月 3日(火) ● 第42回 東海テレビひまわり賞顕彰式
- 7日(土) ● 江南市制70周年記念 フコゾラノツドイ。(読み聞かせ活動)
- 18日(水) ● 多文化交流プログラム「ユニバーサルスポーツを通じてミライを考えよう」
(東海テレビ国際基金)
- 24日(火) ● 冬のごみゼロアクション



2025年

- 2月 14日(金) ● 『チャリティローズ』フラワーバレンタイン(FNSチャリティキャンペーン)

など

わたしたちのスモールアクション

media



番組・配信・イベント などでの取り組み

- 01：調査報道・ドキュメンタリー・キャンペーン / ドキュメンタリー映画「ひまわりと登山靴」 / 映画「その鼓動に耳をあてよ」 / yum-yumグルメ
- 02：スイッチ!ファーム / SDGs実践中 / 東海テレビふるさとイッチー祭2024
- 03：おぎやはぎテラス ～きょう、12時にどこ?～
- 04：ようこそ～家族のかたち～
- 05：イッチーみらいシート
- 06：愛知駅伝
- 07：社内見学会
- 08：夏休み特別企画 東海テレビ キッズデー
- 09：イッチー読み聞かせコンサート



SDGメディア・コンパクト

東海テレビは国連が世界の報道機関に協力を呼び掛けている「SDGメディア・コンパクト」に2021年1月に署名し、メディアとしてSDGsの推進に努めることを約束しています。



FNS共通ブランドマーク

フジテレビ系列の共通ブランドマークを掲げ、連携しながら持続可能な社会に向けた発信・取り組みを行っています。



名古屋5局合同プロジェクト「SDGs実践中」

名古屋の民放5局が力を合わせ、様々な「SDGs実践中」アクションを各局の番組で紹介したり、各局が実施するイベントにブースを出展しています。

放送人としての社会的責任 届ける力 広がる未来

社会を見つめる目から生まれた作品

キャンペーン『かわるPTA』がギャラクシー賞の報道活動部門で優秀賞。夕方のニュース番組「ニュースONE」で放送した、PTAの様々な問題を取り上げた特集は、YouTubeで200万回再生を超えるものもあり、反響を呼んでいます。日本民間放送連盟賞では、公共キャンペーン・スポット『#ハタチ#学生#いま』とドキュメンタリー『ひまわりと登山靴』がそれぞれ優秀賞を受賞しました。

キャンペーン
『かわるPTA』



公共キャンペーン・スポット
『#ハタチ#学生#いま』



ドキュメンタリー
『ひまわりと登山靴』



映画化で届けられた人たち

2024年1月、救命救急センター（ER）を描いたドキュメンタリー映画『その鼓動に耳をあてよ』が全国で公開されました。3月に新たなスタートを切った今池のミニシアター「ナゴヤキネマ・ノイ」のこけら落とし作品となったほか、5月にはスイスで開かれた映画祭にも招待され、コンテンツ発信の舞台を広げました。



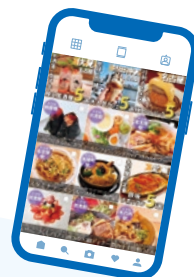
その鼓動に
耳をあてよ



実は報道部WEBチームがやってます…『yum-yum グルメ』

WEBチームが運営するグルメやスイーツのインスタアカウント「yum-yum(ヤムヤム) グルメ」は、2025年2月現在、フォロワーが1.5万人を超えました。東海テレビふるさとイッチー祭2024ではブース出展に挑戦し、グルメ等の販売とともにフォトスポットを設け、家族連れらで賑わいました。

yum-yum
グルメ



足立 拓朗
報道部

放送を通じて社会に貢献

CSRという言葉に身構えていた私ですが、多少なりとも知ると、とても大きなくりで捉えていいことが分かりました。今後も“報道部の強み”を改めて考え、伸ばしていければいいと思います。その意味で2024年は“強み”の取材・番組が評価され、非常に嬉しい一年でした。今後は、報道部として“放送”で貢献することしつつ、報道フロアを大掃除するプロジェクトを遂行中です。「環境を変えれば、仕事の効率や職場の雰囲気もよくなる…はず」ということで、本格的に実施。社内の皆さまにも気軽に遊びに来てもらえるような環境づくりを進めています。

視聴者といっしょに持続可能な農業 イチから畑を作り 野菜と米を育てました



「スイッチ!ファーム」で豊かな暮らしを

健康で豊かな暮らしを目指し、家でも簡単にできる家庭菜園や畑での野菜の育て方を紹介しています。園芸系YouTuber・カーメン君と2022年9月から始め、2年目は、介護施設や保育園の空き地にイチから畑を作り、入所者や園児と野菜を育てました。また、米作りも始め、小学生と一緒に田植えや案山子づくり、収穫体験をし、その米や野菜を使って、豚汁・おにぎりなどを調理しました。



SDGs実践中

名古屋の民放5局がリレー形式でお伝えする「SDGs 実践中」を「スイッチ!」で定期的に放送。東海地方の環境に優しい新たな取り組みを中心に、未利用魚を活用した魚醬・ふりかけや、放置自転車を整備し新品同然にする「リサイクル自転車」を格安で販売する店などを紹介しました。



東海テレビ ふるさとイッチー祭2024

スイッチ!ファームで育てた野菜&米をオリジナルグルメにして皆さんのもとに届けました。地元の小学生と一緒に、畑と田んぼで育てた野菜&米を使って、豚汁・おにぎりを計約1100食、さつまいもチップスを約430食作り、来場者にお届けしました。



服部 篤幸
生活情報部

視聴者のイチバン近くで寄り添う!

昨年度は番組で畑を持って野菜を育ててきましたが、今年度は外に飛び出し各施設の畑で地域の人たちと野菜を育ててきました。視聴者より深く関わり親しまれる番組を目指しています。いまの時代に合わせ、植え付けから手間暇かけない方法を紹介しました。野菜の栽培に手をかける時間が減っても、野菜づくりにかける想いは変えていません。

街の人と一緒に…地方創生に向けた番組づくり
おぎやはぎテラス ～きょう、12時にどこ?～

毎週日曜 正午放送

毎週日曜日、MCのおぎやはぎが東海地方の街へ出向き、そこから地域の情報を生放送で伝えています。「みんなで作ってみんなで見る」というコンセプトのもと、多くの街の人に出演いただき、街の魅力を発信してもらっています。番組ではこれまで、円頓寺商店街、柳ヶ瀬商店街など復活した商店街に注目し、持続可能な街づくりの取り組みを紹介したり、地域で活躍している人々に光を当てる企画を放送してきました。



「おぎやはぎテラス～きょう、12時にどこ?～」には、「わが町にきてほしい」という多くの投稿が寄せられています。テレビ離れが進む中でも、こうした声から地域の人々のテレビへの期待を感じます。我々が一つひとつの声にこたえることこそ、「地域創生」の出发点。街の声と真摯に向き合い、そのヒトやモノを照らしていく…。この番組のコンセプトは、SDGsの理念を地域に広める可能性を秘めています。

伊藤 芳人 制作部



東海地方のふるさとの魅力を描くエリアドラマ第9弾！
ようこそ～家族のかたち～

2025年1月5日(日) 午後4:00～5:25放送

今回の舞台は愛知県江南市。曼陀羅寺公園や布袋の大仏などに、FANTASTICSの瀬口黎弥さんや黒木瞳さんらメインキャストも訪れ、ほぼ全編江南市内で撮影しました。約2週間の撮影期間中、江南市民の方が随所でエキストラとして出演してくださったのですが、その数、なんと500人以上！市民の皆さんが思い思いのメッセージを掲げて撮影したエンディングシーンは圧巻です。瀬口さんに、「エキストラさんがこんな楽しそうな現場初めてかも」とまで言わしめた温かい現場の空気は、ドラマ本編からも感じていただけます。



「息子を亡くした喪主さんそのものでした」。葬儀のシーンで黒木さんの芝居を間近で見た江南市民さんの感想です。今回エリアドラマを制作する上で意識したのは、主人公を江南市の青年にして地元で生きる人の生活に寄り添い、地域の皆さまに愛される物語にすること。そして地元の方、特に子どもたちにお芝居やドラマ作りの楽しさを体感してもらうことでした。そんな想いで制作したので、冒頭のような感想をいただけて私も嬉しくなりました。これからは地域の皆さまとともに、誰もが幸せを感じられるような番組を作り続けたいと思います。

後藤 勝利 制作部

大人になっても思い出す特別な1日を
イッチーみらいシート



イッチーからの贈り物として、“大人になっても思い出す特別な1日”を子どもたちに体験してほしい。そんな思いを込めて、昨年度より始まったクラシックコンサートへ子どもたちを無料招待する企画「イッチーみらいシート」。国内外で活躍する世界一流の演奏家によるステージを提供している東海テレビ主催「スーパークラシックコンサート」7公演を対象に、東海地区で暮らす子どもたちと保護者70組を招待しました。

2024年

●5月27日(月)
大和証券グループPresents
佐渡裕指揮
新日本フィルハーモニー交響楽団
with 角野隼斗 (ピアノ)

●5月29日(水)
森麻季 (ソプラノ) &
グザヴィエ・ドゥ・メストレ (ハープ)

●9月7日(土)
KDDI スペシャル
ロビン・ティチャーティ指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
ピアノ:辻井伸行

●9月10日(火)
マリン・オルソップ指揮
ウィーン放送交響楽団
with 角野隼斗 (ピアノ)

●12月11日(水)
フィルハーモニクス
ウィーン=ベルリン

2025年

●1月9日(木)
キュービー スペシャル
ニューイヤー・コンサート2025
ウィーン・フォルクスオーパー
交響楽団

●1月26日(日)
サントウ＝
マティアス・ロウヴァリ指揮
フィルハーモニア管弦楽団
ピアノ:辻井伸行
ヴァイオリン:三浦文彰



2年目を迎えた「イッチーみらいシート」、徐々に認知度も上がっているのか、昨年度を大きく上回る計500件以上の応募をいただきました。公演終了後には子どもたちに感想を寄せていただいているのですが、「初めての生のオーケストラは映画を見ているみたいでした」「きれいな曲だったのでいつか自分も弾いてみたい」など…素直な感想がいつもとても眩しいです。

平岡 櫻子 事業部

スポーツを通して恩返し
愛知駅伝



愛知県の全54市町村が参加する「愛知駅伝」では、大会当日の朝にトークショーを実施しました。何度もこの大会に出場されている2013年世界選手権マラソン日本代表の岡崎市・尾田賢典さんと、駒澤大学時代に箱根駅伝で3回優勝の実績のある西尾市・糟谷悟さんをゲストにお招きし、学生時代に陸上部だった伊藤大悟アナのMCで、陸上をやっている子どもたちと保護者を対象に実施しました。その様子はLocipoでも配信し、陸上の裾野を広げるための活動としました。

このトークショーは、取材を通して親しくなった糟谷さんから、「陸上の普及活動ができないか」と持ち掛けられたことがきっかけで形になりました。スポーツで育った人々には、スポーツを通して何か恩返しをしたいと考えている人もいます。そんな選手の思いを形にする場所としても、「愛知駅伝」が意味のあるイベントになれば幸いです。

竹内 一喜 スポーツ部



社内見学会

子どもを対象とした社内見学の申し込みには「撮影現場を見たい」「テレビ局の防災を知りたい」など様々な声があり、なるべく要望に沿う形で実施しています。2024年秋には、ドイツの中高生から「日本のテレビ局を見たい」との希望があり、スタジオのリデュース・リユース・リサイクルなどを紹介。子ども達とコミュニケーションをとりファンを増やしなが、社会課題の解決につなげています。



2024年は20校以上の小中高校から見学の申込みがあり、生徒たちからは「ディレクターとしてキューをふりたい!」「照明さんになって表情を豊かにしてみたい!」など要望や感想が舞い込みます。これにはFD体験、照明さんからのレクチャーなどを駆使し、満足度を高めています。また見学直後、ある生徒から「今度、テレビをみるときは、今日の見学の事を思い出して見直してみたいです。」と嬉しい言葉をいただきました。

谷口 雄二 CSR推進部



夏休み特別企画 東海テレビ キッズデー



従業員の子もたちが親の職業や職場に触れ、テレビ局の仕事に親しみながら職業観を育成することを目的とした夏休み特別企画「東海テレビ キッズデー」を開催。「スイッチ!」のスタジオや美術倉庫、副調整室(サブ)などの見学や、ニュース原稿を読むキャスター体験も実施。自分の名刺を作り、親の職場の上司や仲間と名刺交換をするなどの交流の場も設け、働く人の置かれたバックグラウンドを認識することで、多様な人材が働きやすい職場づくりのヒントにもなりました。



イッチー読み聞かせコンサート

東海地方の保育園や自治体の周年イベントなどで、東海テレビ公式キャラクター・イッチーが主人公の紙芝居や手遊び歌などを通じ、子どもたちに楽しいひとときを届けるコンサートです。直接触れ合うことで、子どもたちと楽しい時間をともに過ごし、東海テレビに親しんでもらいながら、エンゲージメントを育む機会となっています。



みんなと一緒にスモールアクション

company



企業

としての取り組み

- 01：東海テレビ福祉文化事業団
- 02：東海テレビ国際基金
- 03：FNSチャリティキャンペーン
- 04：東海テレビ文化賞
- 05：ペットボトルキャップチャレンジ
- 06：トイレ問題に備える ～非常用トイレ設置と女性の声を活かした持ち出しセット～
- 07：視聴者対応窓口

社会福祉の行き届いた 幸せな世界を目指して

45周年を迎えた東海テレビ福祉文化事業団

東海テレビ福祉文化事業団は、東海地方の社会福祉の増進と向上に少しでもお役に立ちたいとの願いから、東海テレビ開局20周年にあたる1979年に設立された社会福祉法人です。心身に障がいを持った方々の自立と社会参画を援助する「障がい者福祉事業」、独り暮らしやホームで暮らすお年寄りを支援する「老人福祉事業」、交通遺児や児童養護施設の児童らの福祉向上のための「児童福祉事業」、地域の社会福祉団体の活動を援助する「社会福祉振興事業」、そして当事業団が主催する「愛の鈴事業」。これらの事業はすべて、東海テレビおよび東海テレビ福祉文化事業団が年間を通じて展開している『愛の鈴しあわせキャンペーン』にお寄せいただいたご浄財で運営されるものです。また、災害の被災地への義援金の受付、寄託も行なっています。



東海テレビ 愛の鈴号 社会福祉団体に軽車両を寄贈

障がいを乗り越えて自立を目指す人たちに役立てていただくため、社会福祉に携わる東海3県1市の団体に軽車両「愛の鈴号」を毎年お贈りしています。2024年度は10月31日、東海テレビにおいて贈呈式が行なわれました。1982年から続く「愛の鈴号」の贈呈は、今年度で43回目。贈呈車両数は、今回の4台を合わせると296台となりました。



植木 圭一

東海テレビ福祉文化事業団

広がる愛の輪、届ける喜び

「愛の鈴号を見かけたよ」と声を掛けられることが多くなりました。また施設から送られてくるお礼状を目にするたびに幸せな気持ちで満たされます。全て皆様からの義援金のおかげです。ある幼稚園では、園児が手作りの募金箱を作り、お小遣いを寄付してくれます。これからも、皆さまひとりひとりの善意に応えられるよう頑張ります。

東海テレビひまわり賞 活躍する障がい者の方を顕彰

身体の不自由を克服して自立し、社会に参画している身体障がい者の方に「東海テレビひまわり賞」を毎年顕彰しています。1983年の東海テレビ開局25周年を記念として始まった「東海テレビひまわり賞」は、今年度で42回目。顕彰者数は277人となりました。今年度は、顕彰者4名の日常に寄り添った特別番組「東海テレビひまわり賞 太陽のように」の放送も初めて実現しました。



チャリティオークションと「福祉の店」

『東海テレビふるさとイッチー祭2024』にて、チャリティオークションを実施したほか、障がい者の方が作ったお菓子を販売する「福祉の店」を初出店しました。



広がる募金活動

近隣の幼稚園でも、長年募金にご協力いただいております。最近は園児たちが「ぼきんしたい!」と自分のお小遣いから募金してくれることもあります。



能登半島地震災害義援金

東海テレビ福祉文化事業団は災害援護事業も展開しており、昨年より事業の一環として「能登半島地震災害義援金」の募金活動を開始。現在も継続中です。

おひとりおひとりの善意が

東海地方の福祉を向上させる大きな力となります
皆様からの温かいご支援をお待ちしています



東海テレビ国際基金は、1994年に設立され、国際化が進む時代の文化交流を柱に、国際交流に取り組む団体への助成を通じ、意義ある活動を後押ししています。また、多文化交流ワークショップなどを実施することで、異なる文化や価値観を共有し、未来への架け橋を築く場を提供しています。活動の様子は広く発信することで、志を共にする団体との連携を深め、地域から国際交流の輪を広げています。



FNSチャリティキャンペーンは1974年に設立され、FNS系列28社がユニセフを通じ、世界の子どもたちへの支援活動を続けています。2024年度の支援国はネパールで、東海テレビでは規格外の花を使ったチャリティイベントをイッチーと実施するなど、様々な活動を展開。地域の子どもたちや学生ボランティア等と協力しながら募金活動をし、想いとミライへの希望を育てています。



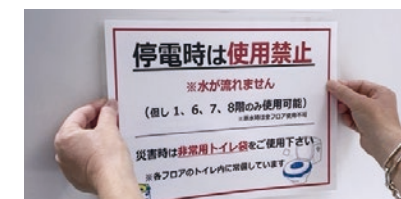
東海テレビは開局10周年の1968年より、東海地方に在住または関係が深く、多年にわたり社会、文化、学術、産業などの各分野で功績のあった人や団体に「東海テレビ文化賞」を顕彰しています。今年度は、医学博士で国立感染症研究所所長の脇田隆宇（愛知県）さんら3人と1団体に贈られました。



2021年1月からスタートしたペットボトルキャップチャレンジの活動は、従業員はじめ多くの協力を得て、これまでにポリオワクチン480人分に相当する約41万個を集めることができました。小さなキャップが世界の子どもたちの命を救う大きな力へと繋がっています。南太平洋上の島バヌアツ共和国でもワクチン接種活動が行われ、東海テレビの従業員の思いを届けました。



被災地では、衛生環境が悪化してトイレの利用を控えた結果、体調を崩す人が続出するという「トイレ問題」が課題となっています。東海テレビでは、備蓄品として「非常用トイレ」の設置に力を入れており、日頃から断水時のトイレの使い方を周知しています。また、被災地でトイレ問題に直面した記者の声から生まれた「非常持ち出し袋」には、生理用ナプキンやサニタリー袋など女性特有の必需品が入っていて、災害取材時に活用しています。女性にも配慮した防災備蓄で、全ての従業員の働きやすさを支援します。



ニュース、情報、バラエティー、ドラマ、スポーツなど様々な番組に対する視聴者のご意見は、「視聴者対応窓口」に電話・文書・メールなどでいただいています。その多くは番組で紹介した内容の問い合わせや意見、番組の放送要望などです。紹介した内容の問い合わせには速やかに対応できるよう社内の協力を得てデータを準備しています。ご意見・ご要望は真摯に伺い、番組の制作担当者・編成担当者などに伝えることで番組や制作現場の改善に役立てています。

座談会2024



東海テレビCSR・SDGs活動の「これまで」と「これから」



テレビ局としての社会的責任を果たす。その想いから、社内には部署を横断したCSR推進チームが編成されています。先人の想いをつなぎながら、私たちはこれから何をすべきなのか。小島社長とCSR推進チームのメンバーが、CSR・SDGs活動の視点から東海テレビの「これまで」と「これから」について本音で語り合いました。



勅使河原 由佳子
社長室 CSR 推進部
※司会進行



金子 卓史
総合編成局
総合編成部



小島 浩資
代表取締役社長



角 あかり
経営戦略局
コーポレートブランディング部



伏原 健之
報道局

社会的責任を果たすため CSR推進チームを編成

勅使河原 まずは小島社長、社内に横断型のCSR推進チームを編成した思いについてお聞かせください。

小島 東海テレビは、愛知・岐阜・三重で暮らす人々に、65年以上の長きにわたり放送を届けてきました。その中で培ってきた「信頼」を礎に、これからも社会的責任を果たしていこうと、2020年にCSR推進チームを発足しました。2023年には、局内のすべての部局にCSR推進担当を配置し、理念が浸透するとともに、多くの従業員がCSR・SDGs活動を「自分ごと」として捉えてくれている実感があります。

金子 私は2020年の初期メンバーでもありますが、チームの活動が局内に広がっていることを肌で感じています。

テレビは世のため、 人のための仕事

伏原 ここ数年、CSRやSDGsという言葉をよく耳にするようになり、「自分たちに何ができるのだろう?」と改めて考えました。そして思ったんです。「いや、待てよ。そもそもテレビ局の仕事は『世のため、人のため』にあるものじゃないか」と。CSRやSDGsに通じる考え方は、すでに東海テレビに根づいている。そのことに気がついたんです。

金子 私も同感です。新しいことに目を向けるだけでなく、これまで取り組んできた仕事を客観的に見つめ直すことで、地域との関係がさらに深まり、それが結果的に地域の未来へとつながるのではないかと。

勅使河原 伏原さんはこれまで『人生フルーツ』(2016年)をはじめとする数々のドキュメンタリーを手がけられ、いろいろな形で地域課題に向き合ってきていますね。

伏原 報道の仕事は、まず「この情報は社会の役に立つものなのか」「当事者の声を正しく伝えられているか」といった要素が求められます。先輩方から受け継いだ報道に対する姿勢を、私たちはしっかりと守れているか。それを考えることが、未来を考えるためには大切だと思います。

地域とのエンゲージメント

勅使河原 そして、私たちメディアは、これからも様々なステークホルダーとの「信頼」を大切にしていかなければいけないですね。

金子 視聴者、顧客、従業員等、様々な立場の方々から信頼されるメディアであることが何よりも大切だと思っています。1年に一度開催する「東海テレビふるさとイッチー祭」では、直接こうした方々との交流を通じて、東海テレビの存在意義や存在価値を再確認する場としても捉えています。

角 東海テレビが地域みなさんに愛されていることを感じられるリアルなイベントは、双方向のコミュニケーションの場としても、とても貴重な機会だと思います。

小島 私たちは報道機関であり、情報番組やスポーツなどのコンテンツを通して、人々を勇気づけたり、明るく楽しい気持ちになってもらうという役割も担っています。こうした中で築いてきた「信頼」は、どんなに時代が変わろうとも、大切にしていきたいと思っています。



「信頼」とは重いもの そして、地域に「価値」を 提供し続けていきたい

勅使河原 私たちが、放送人として様々なステークホルダーと信頼関係を築いていくために、心掛けなければならないことは何だと思われますか？

小島 やはり丁寧なコミュニケーションをとっていくこと。そして、生み出すコンテンツやイベント、普段の私たちの仕事で判断されていくものなので、ひとりひとりが誠実であることだと思っています。

伏原 日々の取材を誠実に、地道に行い、コツコツと放送し続けることが何よりも大切だと思っています。一過性の情報ばかりに偏ったり、視聴率至上主義に走ったりせず、“映像を記録する”ことで、地域の歴史、文化、風俗を繋いでいくことが、私たちの使命だと考えています。

金子 編成という立場で番組に携わっているので、この番組は自分の家族に胸を張って見せることができるかどうか、という点を常に意識しています。番組は一度放送されてしまうと、多くの方の目に触れるため、そのことを常に意識し、面白い番組を送り出していきたいです。

角 私は番組の宣伝活動を行う際、この表現でいいのか、違和感はないかと想像力を使って丁寧に仕事することを心がけています。SNSでの情報発信においても、必ず複数人のチェックを通してから投稿し、細心の注意を払っています。

勅使河原 放送の公共性と社会的使命を胸に、誠実な姿勢を貫きながら、地域とともに歩み、信頼される放送を続けていきたいですね。



先人から伝わる想いに 今のわたしたちのアイデアを 加えながら、誠実に。 未来へバトンをつなぎたい

勅使河原 これからの時代にローカルのテレビメディアに求められるものについては、どのようにお考えですか？

伏原 今の時代、誰もが簡単に世界中の情報を知ることができます。しかし、その一方で、地域のつながりが薄れ、隣の人の顔すら知らない人が多いのではないのでしょうか。

私たちローカル局は、地に足をつけて、身近な人や、身の回りの出来事をしっかりと見つめながら、放送を続けていくことが、今こそ大切だと思っています。

小島 2025年、令和7年は「昭和100年」にあたる記念すべき年でもあります。時代を見つめ、世の中にアンテナをはりながら、歴史をつなぐ新たな取り組みが始められるよう、従業員で知恵を出し合い実行していくことが大切だと思っています。

ともに未来を創造していく

勅使河原 最後に、放送人のひとりとして、未来に向けてどんなことを実践していきたいか教えてください。

角 「地域の方に、まごころを込めて放送を届ける」ということを改めて大切にしたいです。同時に、世界に向けて発信している番組も増やしながら、幅広い視野で放送に携わっていきたくと思っています。

金子 東海テレビには面白い人がたくさんいます。「人」でできている会社だと感じます。自分の個性を出し合いながら仕事に取り組むことで、未来を形づくっていきたくと思っています。

伏原 どんなに時代が変わっても、人が感動を求めることは絶対に変わりません。そのことを忘れさえしなければ、テレビの可能性はもっと広がると確信しています。

小島 私たちは地域の方々に自信を持ってお届けできる番組を放送できているか。そのことを常に自問自答できる集団でありたいと思っています。ひとりひとりが放送人としての責任を持ちながら、助け合い、全従業員一丸となって、未来を創造していきましょう。



編集後記



テレビ局を取り巻く環境が厳しさを増す中で、メディアに携わる自分たち自身について、問い直さなければならない出来事に遭遇しました。自分の言葉は人を傷つけていないか？当たり前だと思っていることは、本当に当たり前か？メディアに携わる自分自身を省みなくてはならないと、改めて感じています。

正解も道しるべもないなか、ミライを生きる人たちに恥ずかしくない一人と企業でありたいと、私たちは「自分ごと」として社会課題の解決に向けた取り組みを続けています。そして、これからもメディアで働く一人として、責任あるアクションを起こしていきたいと思っています。

ひとりひとりの意識が変わり、発信していくコトが変わる先に、ミライがあるのだと信じています。時代をとらえる感覚を仕事に活かし、これからも地域のみなさまに信頼され、愛されるメディアでありつづけたいと思います。時代の変わり目だからこそ、ローカルメディアに出来ることがある、私たちはそう信じています。



竹尾の環境対応紙



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの
インキを使用して印刷しました。



東海テレビ放送株式会社
社長室CSR推進部

〒461-8501 名古屋市東区東桜1丁目14番27号
代表：(052)951-2511